

# 令和4年度 第3回摂津市立千里丘小学校学校協議会 要点録

令和4年7月28日(木) 18:30~20:00

於:千里丘小学校 東棟1階会議室

記録:紅林 陽子(事務局:本校教頭)

出席委員:中田 康之・以登田 毅・藤浦 清美・前馬 晋策・河合 隆之

欠席委員:佐野 英和・木下 さひ子・寺田 洋子・橋爪 恵子・谷口 浩之・武友 加代子

(敬称略)

学校出席者:校長 撰田 裕美・教頭 紅林 陽子

## 1. 校長より挨拶

とても暑い日が続いている。月曜日の最高気温は37℃にもなった。現在、夏休み中であるが、教員による学習指導と水泳指導を行っている。平均すると6割弱の児童が参加しており、暑さの中でも児童たちは元気な顔を見せてくれている。

新型コロナウイルスの感染者の報告が入ってきている。本校としては爆発的に感染者が増えているわけではないが、報告数が上がってきている。来月以降の動向、特に9月は修学旅行を控えており、気になるところである。

## 2. 熱中症対策について

校長 近年、5月ゴールデンウィーク頃から急激な気温の上昇があり、熱中症の懸念がある。5月~10月の半年近く、熱中症の対策を行う必要がある。大人も子どもも、どのように熱中症と向き合っていけばいいのか悩むところである。ご意見いただきたい。

現在、学校で行っている対策を紹介する。

- ・黒球式熱中症指数計による測定。(測れるものは、暑さ指数(WBGT値)、気温と湿度。WBGT値は熱中症の危険度を表す。28度以上は嚴重警戒)体育の運動時や休み時間の前などに、WBGT値を確認している。
- ・集中玄関先にミスト…PTAより寄贈
- ・各教室にエアコン設置(サーキュレーター併用)
- ・体育館に大型サーキュレーター(今後、エアコン設置予定)
- ・プールサイドにテント設営…直射日光を遮る
- ・こまめな水分補給
- ・十分な睡眠

下の二項目については、家庭にも呼びかけるなど、家庭と連携して進めている。

学校で進めているのは以上だが、他に改善できる点があればご意見いただきたい。

委員 登校の見守りで毎朝立っているが、登校の様子を見ていると、ほとんどの児童がマスクをしている。会話をしている子だけでなく、一人で歩いている子もつけている。中学生も同様で、着脱の判

断が難しいのだと思う。何と声をかけていいか悩む。マスクと熱中症との因果関係がよく分かっていないところではあるが、テレビでも取り上げられている。学校では、いつどのタイミングで着用、外すと伝えているか。

校長 体育の時間は取るように指導している。登下校のマスク着用のあり方については、朝礼やセーフティパトロール、児童会等の機会を活用して発信している。が、実際は着用したまま登校する子が多い。

委員 大人も屋外で着用したままの人が多い。そこは仕方ないところもあるかもしれない。

委員 確かに、一人で車に乗っていてもつけていたりする。習慣化している。

委員 帽子をかぶってくる児童もいるのだろうか。

校長 この頃は帽子に加えて日傘をさしてくる児童もいる。

委員 水筒を各自持参しているのだろうが、学校でも水分補給のできるものはあるのか。

校長 冷水器のようなものは小学校にはない。

委員 中学校では PTA が設置したりしていたが。

委員 今はコロナもあって難しいだろう。

校長 子どもたちはかなり大きな水筒を持ってきていて重そうだ。

委員 子どもたちは忘れずに持ってくるのだろうか。

校長 ほとんど忘れることはない。たまに忘れたという時も、保護者が持ってきてくれている。

委員 暑いから「なるべく涼しく過ごす」ということがベースなのだが、逆の発想はどうだろう。極端な話になるが、自分はエアコンを使わず扇風機をベースに過ごしている。常に空調の効いた場所にいられるならともかく、子どもたちや働いている世代の人は、間違いなく暑い場所にも出る必要がある。暑さに身体が慣れておく必要もあるのだと思う。高校野球なども暑さの中で行われているが球児たちが熱中症で倒れることはほとんどない。暑さに身体を慣らす、ということも一つの対策になるのかもしれない。

委員 夏休みに家でクーラーに当たっていたりすると、2学期に学校に来る時にしんどくなるのかな、と思う。

委員 自分たちが子どものときは暑い中でも外で遊んでいたが、今の子どもたちはゲームやスマホなどがあり家にいることが多い気がする。心配にもなる。

校長 暑さ対策というわけではないのだが、午前中に学校を開放している理由として、生活のリズムを崩さないこととともに、家から外に出るという目的もある。

委員 やはり学校としては、教育活動の中で、一番体力のない子に合わせて、熱中症対策をする必要はあると思う。暑い中、屋外でスポーツする子も活動後はエアコンに当たったりしていたりする。学校の危機管理として考えた時、対策のあり方は大切かと思う。

校長 幼稚園などはどうだろう。

委員 幼稚園も基本的にはエアコンのついている場所で過ごしている。体育館もエアコンがついている。ただ、自由保育の時は時間を持て余すこともあって、涼しい時間帯は外で遊ばせたい。大人がもっと知識を持っておくべき。熱中症をどう予防できるか、もし熱中症になった時にどう対応したらいいのか。しんどくなってから「お茶を飲みなさい」では遅い。発汗する前に体内に水分を蓄えておくことが大切。経口補水液などの意義(生水を飲むことで熱中症が進んでしまう、電

解質を早く補給すること)だとか、体温を下げるには保冷剤が有効だということなど、知識が必要。  
校長 異常に暑い日がある。教員の知識のあり方など、また考えていきたいと思う。

### 3. 夏休みのあり方について

校長 夏休みが以前よりずいぶん短くなった。

児童については、7月21日～8月24日が夏休み。始業式は8月25日となっている。8月6日（今年は曜日の関係で5日）に平和登校を予定している。8月2日までは毎日水泳指導（3部制）、学習室（教員による指導）と図書室の開放（本の貸し借り）を行っている。水泳指導はWBGT値も考慮して午前中早めに時間を設定し、行っている。学年によりばらつきはあるが、60%くらいの児童が参加している。

教職員については、この期間も「勤務を要する日」となっている。働き方改革の一環で、8月13、14、15日は一斉閉庁日となっているが、個人で休みの申請を行う必要がある。夏季特別休暇が5日付与されており、各自で申請する。また、年次休暇を年間5日以上取るように指導されているが、教員たちは長期休業中に入る傾向がある。

夏休みは本来“暑さによって学習が困難である”ので休むという趣旨であったが、教室のエアコン設置などもあり、そもそもの意義が変わってきている。一方で教員もどう過ごすかが大切。資料は教員の研修一覧であるが、児童への指導や研修を進めながら、その一方で働き方改革の流れで休みを取る必要がある、とされており、夏休みをどう過ごすのかが悩ましく、ご意見いただきたい。

委員 教員時代を振り返ると、夏休みは水泳をやらせる機会だと認識していた。水泳指導は20～22日間くらい、それも朝から夕方まで丸一日行っていた記憶がある。

委員 かつては連合水泳大会に向けて熱く指導していて、夏休みはプール一色だった。真っ黒に日焼けしていたと思う。一方で資料（今年度の研修予定）を見たら、研修が多くなっており、いつ休むのかな、と思う。夏休みはリフレッシュする期間でもあった。夏季休暇の間に気になっている本を読んだり気になっていた場所に行ったりする貴重な期間だった。学期中にはなかなかできないことをやる機会。それぞれに夏休みに目的をつくって普段できないことをやるために、縛られないものも必要かと思う。研修は必要である研修と、自分で学びたいことがあると思う。秋に行われる運動会に向けて、ダンスの振りを学んだり練ったりするのも、余裕のある夏休みならではのと思う。

校長 夏休みに特色ある取組みを進めるための研修を行う。自校で行う研修の他に、市教委の行う研修もたくさんあり、休みがなかなか取りにくい状況もある。夏休みはどうしたらいいのか、と毎年悩むところだ。

委員 学校の予定関係というのは、どれくらい前に分かるのか。

校長 学校で行う研修は年度初めに組むので数か月前に分かっているが、市で召集される研修は、直前に入ってくることも多く、スケジュールが調整しにくい。コロナの関係で研修の形態など調整することでなかなか案内ができない状況もあるのだろうが。

委員 1か月を切った時期の研修は、拒否しても良いように思う。リフレッシュする期間も大切だと思う。そうでないと、離職してしまう現象も止まらないのではないだろうか。”休暇が取れたら取る”では、取らない人は取らない。「ここからここは休み」と言って休ませるくらいの勢いが必要だと思

う。

児童については学習室開放など良いと思う。強制ではなく児童の自主性に任せているのがいい。  
ちなみに学習スペースはどのように行っているのか。

校長 基本的には多目的教室を開放しているが、時間帯によっては席が足りず、一般教室も開放して行っている。

委員 学習室に参加している人も多いということ。いいと思う。

委員 少なくとも参加している間はゲームもしない。

校長 嬉しい悲鳴で、参加している児童が多く、場所が足りなかった。

委員 居場所がない児童が多いのかもしれない。でも、水泳指導も学習室も、全部 8 月 2 日で終了してしまう。2 日以降は少し心配でもある。

委員 以前は連合水泳大会もあり、後半も水泳指導があった。今は暑さや新型コロナウイルスの影響で行っていないのか。

校長 現在、連合水泳大会はコロナ禍により中止されているが、そのために後半の水泳指導がなくなったわけではない。夏休みの明ける直前の水泳指導、学習室の後半開催については、正直なところ迷った。しかし、体制なども考えると難しい。

委員 確かに、休めない。

委員 かつてはお盆を過ぎたらプールが寒かったりした。夏休みが 42 日あった頃は、今より暑さが柔らかかった。昔より暑くなっているのに夏休みが短くなっている逆現象が起こっている。

夏休みが短くなっているのは教育課程が変わって、授業時数が不足気味になっているため。授業時数の確保が必要になっている。一方で授業が詰まっていることで、平日に研修ができる曜日がなくなってきた。働き方改革のこともあって勤務時間に研修を組みにくい。だから、夏休みに府も市も学校も研修を組む。結果、夏休みが研修であふれる。

校長は大変。研修は行わないといけなし、10 日間の休みを取らせる必要がある。

エアコンもついていることだし、思い切って夏休みを短くして（2 週間くらい）、その間全く何も予定を入れない、ゆっくり休める期間をつくってもいいのかも。国レベルで固定概念を変えて行く必要もあるのではないだろうか。

校長 夏休みの期間が長い地域は、土曜日の授業があるなど、授業時数を確保する為の工夫をしている。7 時間授業を実施したりするところもあり、授業時数を確保するのは、どの学校も課題である。

委員 東京の方では、8 時半から授業を始業し、7 時間授業を行っているところもある。

校長 “今までこうだった”ということを先行させてしまうと、うまくいかないところまで来ている。働き方改革も、制度は変わっていくが、中身を変えていく必要があると感じている。

委員 夏休み中も幼稚園にも子どもがたくさん来ている。おそらく学童にもたくさん来ているのだろう。夏休みを家庭に返す、というのも時代に合っているのか疑問だ。

委員 長期休暇中の親の負担は大きい。共働きの家庭も増えており、食事の面を考えても大変で、短くなるというのであればありがたい。旅行や遊びに行くなど、思い出作りをする機会ではあるが。コロナの時の 2 週間の夏休みは、メリハリがあってよかったとも思う。

委員 夏休み、子どもの預け先に悩む親もいるのかも。夏休みを 2 週間、という案もいいと思う。

校長 水泳指導など、毎日 1 時間の指導だが、子どもたちの成長は目覚ましい。1 年生などは着替えのス

キルも上がっている。“夏休みだからこそ”という体験・学びも大切。外部と連携できないのか、とったりもする。

委員 9月始まりであつたら、夏休みに体験活動ができる。欧米では、7、8月が完全に休暇でサマーバケーションが2か月ある。私が視察に行ったアメリカの学校では、2か月の休暇の間、学校を使って教員が互いに研修をし合っていた。

ただ、休暇が長いことで、学びが途中で切れてしまったりリセットされてしまう子どももいる。制度の中でメリットもデメリットもある。教員の働き方も変わってきている中で、合わなくなっているものが出てきているのではないだろうか。大変な中、先生方の意欲は保てていると思うし、そこは大事にしながら枠組みを変えていく発想も持たないといけないと思う。

校長 感覚としては“夏休みは忙しい”というのがある。

委員 閉庁日についてだが、8月13日～15日の閉庁日についても休暇届を提出する必要がある、というのは疑問だ。民間で言うと、土日に有給を使え、と言っているようなもの。

校長 学管規則では「勤務を要する日」とされている。

委員 「閉庁」とはなっているが、どうしても仕事をしたい人は申し出たら勤務できることにはなっている。実際にそんな人はいないが。冬休みの12月29日から1月3日の閉庁日は「勤務を要しない日、休業日」となっており、届の提出は不要。だが、お盆はそうならない。

委員 勤務できないのであれば、お盆期間も「勤務を要しない日」とした方がよいのでは。違和感がある。

委員 「休んでください」というお願いベースなのだろう。

委員 これまでは、管理職だけがお盆に出勤していたりしていた。

委員 お盆の時期の勤務については、校長と教頭でいつも話し合っていた。

校長 今は来なくてよいので、管理職にとってはありがたい。

委員 市費の職員は閉庁日の扱いが違う。そこも変だと思う。

このように学校の実態を知っていただくのは良い。

校長 いまだに「先生は夏休みがあつていいですね」と言われることもある。

#### 4. 人権教育（命にかかわって）

校長 命の大切さについて、子どもたちが人の死について軽んじているようなふしがあり、気になっている。テレビをつければ、ウクライナとロシア、安倍元首相、虐待などのニュースがあふれており、死に関わる報道を子どもたちがどう受け止めているのか。

子どもたちはバトルロイヤルゲームにいそしんでいる現状がある。現実と仮想空間がごちゃごちゃになって、トラブルにもなっている。子どもの捉えがどうなのか気になる。

命の大切さについて、避難訓練などを通して教えていくが、学校でできることは何なのか。

平和教育において原爆のことに注目しているが、それだけでいいのか、と思うこともある。現実起こっていることをどう子どもに伝えたり考えさせたりすればいいのか、悩ましい。

委員 それでも言い続けられないといけない、というところだと思う。昔から世界各地で戦争は続いていたが、今はリアルタイムで衝撃的な映像が目に入る。虐待については、学校でどうこうというよりは子どもは被害者。ゲームについては今に始まったことではない。学校としては命の大切さを教えていくしかないのではないかなと思う。

できれば、身近な命が感じられるような機会があればいいと思う。戦争についても生の声を語り部の方から聞く方が心に響く。近所の方や親戚が亡くなる、などという経験が「命」を考える機会になると思う。お見舞いなどの経験も含め、人の死や命と向き合う経験ができたらいと思う。学校では難しいが。

以前は赤ちゃんに触れ合う体験があったと思うが。

校長 今も実施しており、今年は 6 月に実施した。市役所から人形を借りてきて、育休中の職員が赤ちゃんを連れてきて触れ合った。

委員 うまくチャンスを活用してほしい。先日、幼稚園で「夕涼み会」をした。キャンプファイヤーを行ったが、とても淡白だった。火の便利さと、火の怖さ（火事、戦争）に触れるなどできたはずと反省している。

やることに意味や意義を考える事が大切。1 学期に隣の中学校の生徒と合同避難訓練を行った。中学生が 2, 3 歳の幼児の手を引いて、3 階まで避難した。手を引いて逃げる様子がとてもよかった。学校の教育活動の中には、そういったチャンスがあふれていると思う。

縦割りなど行う時も、ただやるのではなく、ちょっとしたふれ合いを入れると良い。

校長 昨年度は異学年の交流を制限していた。結果、いろんな機会が失われていたと思う。ゲームはきっと面白いのだろうと思う。

委員 人との対戦ゲームはやったことない。

委員 ゲームは命がリセットできてしまう。そんな簡単なものではない。大けがすると大変なことや、死んでしまったら終わり、という感覚が大切だろう。

委員 ゲームは間違いなく親が買い与えているもの。保護者の意識がものをいう。年齢制限の必要性を感じる。我々が子どものころと比べて、ゲームがどんどんリアルになっている。

校長 16 歳か 18 歳か一定の年齢制限があり、保護者の許可が必要だったと思う。

委員 兄弟の関係もある。兄や姉に買い与えたものを小さい子がしてしまうこともあるのかもしれない。

委員 縦割りで助け合う、という経験も大切。

委員 わくわく広場も、本来は違う学年の子と仲良くすること、助け合いが目的。ドッチボールをやっている子どもたちが年下の子に対して優しくボールを投げている場面がある。

リハサロンで子どもたちが年寄りを助けてくれる場面もある。坊主めくりや達磨落としなどで、お年寄りを助けてくれたりする。そんな中で子どもたちの考えていることや意識を垣間見たりする。子どもはいろんな場面でいろんな設定を作って遊ぶ。戦いごっこもある。ゲームをしたら勝ちたいという気持ちがあるが、やり過ぎたら加減する。場づくりとして、学ぶチャンスは色々あると思う。

校長 いろんな経験や設定が大事ということだろう。

委員 ウクライナとロシアでの状況は難しいところもある。一人にスポットを当てた取組みにしたら、子どもたちも考えやすいしフィードバックもしやすいと思う。今はロシア民謡が歌いにくい。早く平和が戻って欲しい。

## 5. 次回日程

次回は 10 月 7 日（金） 18:30～